

# 2 課

4月10日

## 契約についての 初歩的学び



安息日午後 4月3日

### 暗唱聖句

今、もしわたしの声に聞き従い／わたしの契約を守るならば／あなたたちはすべての民の間において／わたしの宝となる。世界はすべてわたしのものである。(出エジプト記 19 : 5、新共同訳)

それで、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、あなたがたはすべての民にまさって、わたしの宝となるであろう。全地はわたしの所有だからである。(出エジプト記 19 : 5、口語訳)

### 今週の聖句

創世記 9 : 15、イザヤ 54 : 9、創世記 12 : 1~3、ガラテヤ 3 : 6~9、29、  
出エジプト記 6 : 1~8、エレミヤ 31 : 33、34

### 今週のテーマ

今週は人類歴史の初期の契約を一日ごとにひも解き、それらすべてはそれぞれに、真の契約としての現代の真理を指し示していることを学びます。それはカルバリーにおいてイエスの血によって批准された契約であり、キリスト者として私たちが主と共に入るための契約です。

初めに、ノアと彼の家族を滅びから救うために結ばれた契約を学びます。そして私たちにとってもすばらしい約束に満ちたアブラハムとの契約に進み、次にシナイで与えられた契約と、そこで宣言されたことの重要性について学びます。そして最後に、すべての契約が指し示す新しい契約について学びます。これらの契約については、もちろん、あとで数週間をかけて学びますが、今週は少しだけのぞき見してみましょう。

### 今週のポイント

契約という言葉は何を意味するのでしょうか。契約にはどんな要素が含まれますか。神はノアとどんな契約を結ばれましたか。アブラハムと交わされた契約の中にどんな希望を見ることができますか。神との契約に際して、人間の側での信仰と行いはどんな役割を果たしますか。契約はただの取引でしょうか。それとも相互の関係性によるものでしょうか。「新しい契約」の本質は何ですか。

「わたしは、あなたとの間にわたしの契約を立て、あなたをますます増やすであらう」(創17:2)。

「旧約聖書に287回出てくる『契約』と訳されるヘブライ語は、『ベリート』で、この言葉は『誓約』または『遺言』とも訳することができる。その語源は定かではないが、『二者が一つに結び合わされること』を意味する。しかし、この『結合』には、男女間や神と人など、多くの異なる型がある。この言葉は人の間でも普通に用いられるが、特に、神と人との間の契約という宗教的意味合いで用いられる言葉である。この宗教的用法はもともと、通常の用法に基づく比喩として用いられ始めたが、後により深い意味を含むようになったと考えられる」(J・アーサー・トンプソン『国際標準聖書辞典——「契約」旧約聖書編』第1巻790ページ、英文)。

結婚の契約のように、聖書の契約は2者との間の「関係」と互いが守るべき「協定」を定めます。聖書の契約は、協定として、以下のような基本的要素を含みます。

- (1) 神は契約に伴う「約束」を誓われました(ガラ3:16、ヘブ6:13、17)。
- (2) 人間の側の契約に伴う「義務」は、十戒に表された神のご意思に従うことでした(申4:13)。
- (3) 神の側の契約に伴う「義務」は、最終的にキリストを通して、<sup>あがな</sup>贖いの計画において完成されました。

**問1** 上記の3つの要素(神の約束、私たちの服従、贖いの計画)を見ると、あなたの人生にこれらの要素はどのように働いていますか。具体的に書き出してみましょう。

旧約聖書の中に、贖いの計画全体を示す型として、民に犠牲制度が示されました。この象徴的儀式を通して、父祖たちとイスラエルは来るべき贖い主を信じる信仰を働かせることを学びました。この儀式を通して、悔い改めた者たちは罪を赦され、罪の意識から解放されるのでした。このようにして、この契約の祝福は保たれ、彼らの中に神の御形が回復され、人類は地上の取引においてそれを守り抜くことができない存在であってもなお、霊的成長は続くのです。

契約は人の間で交わされるものですが、ヘブライ語聖書の「ベリート」はおもに、神と人の関係に用いられる言葉です。神はどのようなお方であり、対して私たちはどんな存在であるかを考えると、聖書の契約はどのような関係を表すのでしょうか。

「わたしはあなたと契約を立てる。あなたは妻子や嫁たちと箱舟に入りなさい」(創6:18)。

上の聖句の中に、聖書で最初に「契約」という言葉が出てきます。そしてこの言葉へと続く文脈で神は、地上に人の悪が増し、それが広がり続けたので、地を滅ぼすことにしたことをノアに告げられたのでした。神は続けて、人類の墮落の後、すぐに契約関係を提供するために行動を起こされます。この契約を提供される「わたし」は、ノアの安全を約束される神ご自身なのです。主は契約を守られる神として、喜んで主との契約関係に生き、その結果として主に従う家族を守ることを約束されました。

**問2 このノアとの契約は一方的なものでしたか。契約は一者では成り立たないことを思い出してください。ノアは1人でこの取引を守ることができましたか。**

神は洪水が起こり、世界は滅ぼされることをノアにお告げになります。しかし、神は彼と取引をし、その中でノアとその家族を救うことを約束なさいます。このように、この取引のために神が支払う掛け金は実に高いものでした。なぜなら、もし神がこの約束を守られなかったなら、いずれにせよ、ノアは残る世界と共に拭い去られてしまうことになったからです。

神はノアと、「契約」を立てると言われました。この契約を立てるということ自体、それは相手の言うこと、することに敬意を表す行為です。契約の言葉は気まぐれな言葉ではありえません。その言葉自体に責任が伴います。神が、「見よ、世界は恐ろしい大洪水の中に終わる。そして私はおまえを救う。いや、救わないかもしれない。とりあえず、これとこれはするが様子を見よう。だが必ず救う保証はできない」と言われたとしたら。そのような言葉はもはや「契約」ではなく、その中に保証も約束も見いだせません。

ある人々は、ノアの洪水は全世界規模ではなく、限られた地域だけのものだと主張します。もしそうであれば、創世記9:15(イザ54:9も参照)に約束された神の契約は、世界の各地域に洪水が起こるたびに破られていることになります。逆に、その後、世界規模の洪水が起きていないという事実は、神の契約の正当性を立証するものです。この事実は、神の約束の信頼性について私たちに何を語っているのでしょうか。

「……地上の氏族はすべて／あなたによって祝福に入る」(創12:3)。

**問3** 創世記12:1~3を読み、神が特別にアブラムにした約束を書き出してみましよう。

**問4** すべての地上の氏族はどのようにして、彼によって祝福されるのでしょうか。この神の民の歴史初期の約束の中に、メシアなるイエスの約束を見ることができますか(ガラ3:29参照)。

この聖句の中に、アブラムに対する最初の天の啓示が記録されています。神はここに、彼との親密で永続する関係に入ることを約束しています。しかも、神は契約について何も語らない先に、まず約束されたのです。ここでは、神と人間の関係が持つ重大な意味について触れています。創世記12:1~3に繰り返される「わたしは……する」は、神が提供される大いなる約束を表しています。

さらに、アブラムは一つだけ、しかしきわめて困難な、「行きなさい」との命令を受けます。彼は信仰によって従いますが(ヘブ11:8)、それは約束された祝福のためではありませんでした。彼の服従は、愛の関係に対する彼の信仰の応答であり、神のお望みになることが実現するためでした。言葉を変えれば、アブラムはすでに神を信じ、すでに神に信頼し、すでに神の約束を信じていたのです。もしそうでなければ、彼は親族と祖父の地を離れ、見知らぬ土地に行き、そこで新たな出発をすることは決してできなかったでしょう。彼の服従は、人々と天使たちに彼の信仰を示していました。

その時点ですでに、アブラムは鍵となる信仰と行いの関係を明らかにしています。私たちは信仰によって救われます。それは服従という行いを生む信仰です。救いの約束が先行し、行いは後に続くのです。服従を伴わない契約関係も祝福もありますが、この服従は神がすでにしてくださったことに対する信仰の応答です。このような信仰は、1ヨハネ4:19にあるように、「わたしたちが〔神を〕愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです」を示すものです。

創世記15:6を読んでください。この原則はなぜ、あらゆる場合にすべての契約の約束の基礎となるのでしょうか。この祝福はなぜ、すべての祝福の中で最も尊いものなのでしょうか。

問5 出エジプト記6:1~8を読んで、次の問いに答えましょう。

- (1) 彼はどんな契約について語っていますか(創12:1~3参照)。
- (2) 出エジプトにおいて、神はどのように契約の神の側の責任を果たされましたか。
- (3) ここで神がイスラエルの民に約束されたことと、主が洪水前にノアに約束されたことを比べると、どんな共通点がありますか。

出エジプトの後、イスラエルの子らはシナイ山で契約を受けますが、それはエジプト捕囚からの救出という文脈の中で与えられたものでした(出20:2)。その契約は、贖罪と罪の赦しのための神の犠牲を指し示すものでした。ですから、それらはすべての神の契約と同じように、主の民に差し伸べられた神の恵みなのでした。

この契約は、さまざまなかたちで繰り返されましたが、アブラハムと結んだ契約の最も重要な強調点は、次のようなものです。

- (1) 主の民に対する神の特別な関係(創17:7、8を出19:5、6と比較)
- (2) 彼らは大いなる国民となる(創12:2を出19:6と比較)
- (3) 服従が求められている(創17:9~14、22:16~18を出19:5と比較)

「この順序に注目していただきたい。主がまずイスラエルを救い、次に彼らに守るべき主の律法をお与えになるのである。福音についても同じである。キリストがまず私たちを罪から救い(ヨハ1:29、1コリ15:3、ガラ1:4)、次に私たちのうちであって主の律法を実現してくださるのである(ガラ2:20、ロマ4:25、8:1~3、1ペト2:24)」(『SDA聖書注解』1巻602ページ、英文)。

出エジプト記6:7を読んでください。最初の部分の、「彼らは主の民となり、主は彼らの神となる」とのみ言葉は、何を意味しているのでしょうか。神は単に主の民との特別な関係をお望みになるだけでなく、主の民にも神との特別な関係に入ることを求めておられるのです。主は今日も、私たちに同じように主との特別な関係に入るよう求めておられるのではないのでしょうか。あなたはそのような関係に入っていますか。それとも教会員名簿に名を連ねているだけですか。

このエレミヤ書の記述は、旧約聖書で最初に「新しい契約」という言葉が用いられている個所ですが、それはイスラエルの捕囚からの帰還という文脈で語られ、神から彼らが受ける祝福について語っています。ここで再度、契約とはまず、神によって立てられ、それを恵みによって実現されるのも神であることを覚えてください。

ここで、神はご自身を「夫」という言葉で表現しておられることにも注目してください(口語訳)。主はその律法を彼らの心<sup>こころ</sup>に書き記し、アブラハム契約(アブラハムと結んだ契約)から引用して、主は彼らの神となり、彼らは主の民となると言われます。このように、主の契約は、今日の法廷で交わされるような単なる法律的な協議事項以上のものなのです。

**問6 エレミヤ31:33と出エジプト記6:7を比べて、イスラエルと結ばれた契約の細かな部分を比較してください。両者で鍵となる要素は何ですか。神は主の民に何を望んでおられますか。**

**問7 エレミヤ31:34を読んで、ヨハネ17:3に言われていることと比べてください。この主との関係の基礎を築く鍵となるものは何ですか。**

エレミヤ31:31~34に見られる恵みと服従は、主がイスラエルと交わされた初期の契約にも見られる要素です。主は彼らの罪を赦し、主は彼らとの関係にお入りになり、そして主は彼らの人生に恵みをお与えになります。その結果として、主の民は単純に主に従うのです。それは何も考えない機械的な反応としてではなく、それは純粹に彼らが主を知るからであり、彼らが主を愛するからであり、そして彼らが主に仕えたいと望むからなのです。この主の愛に捕らえられることこそが、主がその民にお求めになる契約関係のエッセンスなのです。

あなたはこの「私たちの心<sup>こころ</sup>に書き記された律法」という考えをどのように理解しますか。それは、律法が主観的かつ個人的に解釈され、私たちの心に独自のものとして形づくられ、適用されるということなのでしょう。そうでないとならば、どんなことなのでしょう。

参考資料として、『人類のあけぼの』第12章「カナンにおけるアブラハム」、『国と指導者』第34章「立ちあがった預言者エレミヤ」を読みましょう。

「奉仕にむすびつけるくびきは神の律法である。エデンであらわされ、シナイで布告され、新しい契約のもとに心にしるされる偉大な愛の律法は働く人間を神のみこころにむすびつけるものである。……この奉仕のくびきを、キリストは自ら人性をもって負われた。イエスはこう言われた。『わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります』（詩篇40：8）『わたしが天から下ってきたのは、自分のこころのままを行うためではなく、わたしをつかわされたかたのみこころを行うためである』（ヨハネ6：38）。神に対する愛、神のみ栄えをあらわそうとする熱心、墮落した人類に対する愛のゆえに、イエスはこの世においてになって、苦難を受け、死なれたのである。これがイエスの一生を支配した力であった。この原則をとり入れるようと、イエスはわれわれに命じておられる』（『希望への光』838,839ページ、『各時代の希望』中巻49、50ページ）。

### 話し合いのための質問

- ① ノア、アブラム、モーセ、そして私たちと結ばれた神の契約は、アダムとの契約から継続しているものでしょうか。それとも新しいものでしょうか（創3：15、22：18をガラ3：8、16と比較）。
- ② 契約の持つ個人的な関係性は、なぜ非常に重要なのでしょうか。言い換えれば、あなたは個人的な親しい相互の<sup>かか</sup>関わりなしに、いきなりだれかと法的な契約を結ぶことはないでしょう。主がその民に望んでおられる契約関係もそのようなものではないはずです。なぜでしょうか。
- ③ 結婚はどんな点で神の契約を端的に表す良い例といえますか。

### まとめ

創造主との関係を断絶させた罪の侵入は、元をたどれば私たちの最初の両親によって人類家族にもたらされたものでした。今日、神は契約によって同じ愛の関係を再構築したいと望んでおられます。この契約は、神と私たちの間の（結婚のような）献身的な関係と、私たちを救い、私たちを創造主との調和の中に連れ戻す計画を意味します。

## 農夫が教会を建てる

フアンはセブンスデー・アドベンチストの牧師に、村に教会を建てるための協力を求められました。フアンは驚きました。彼は農夫で、教会員でもありません。しかし、毎週自分の村で安息日に礼拝していましたので、協力することにしました。フアンと牧師は、毎安息日に親戚の家で教会を開き、交代で説教をしました。すると、6か月の間に6人がバプテスマを受けました。それから更に半年後、フアン自身もバプテスマを受けました。

アドベンチストのリーダーたちは、伝道が難しい南部地方でのフアンの働き、神の祝福に感銘を受けました。台湾教団は、南部の村サンティに教会を開拓するよう彼に頼みました。6年後、そこにできた教会は力強く成長しました。次にフアンは、昔閉じてしまったシアテヤの教会を再開することになったのです。

その時、フアンは初めて、自分の神学教育の足りなさに不安を覚え、祈りました。シアテヤの教会を再開すると、最初の安息日に2人の礼拝者がやって来ました。彼は2人に、金曜の夜に彼らの家を開放し、土曜日に人々を教会に招くよう励ましました。8年後、74人の教会員が集うようになりました。

17年にわたる働きを振り返り、「教会建設の秘訣は、キリストの方法に従うことだ」とフアンは言います。エレン・ホワイトは、こう言っています。「人の心を動かすには、キリストの方法だけが真の成功をもたらす。人間として歩まれた間、救い主はその人たちの利益を計られ、同情を示し、その必要を満たして信頼をお受けになった。そして『わたしについて来なさい』とご命令になった」(『ミニストリー オブ ヒーリング』新装版88ページ)。

現在、75歳のフアンは、人々の必要に応えることを心掛けています。シアテヤでは、毎安息日の交わりと食事のために、自分の農場で採れた果物を持って行きます。礼拝の参加者たちは、彼を模範とし、従うようになりました。シアテヤに新しく赴任した若い牧師が秘訣を聞くと、フアンは「憐れみを示しなさい。忍耐強く謙遜でありなさい。他人を愛しなさい。まさに、イエスがなさったようにするのです」と答えました。

